



読書週間は読書推進運動協議会が中心となって10月27日(文字・活字文化の日)から11月9日(文化の日)を中心に2週間にかけて、学校や公共図書館、新聞や出版団体が本にまつわる行事を開催して読書の普及活動を行うものです。本校でも図書委員による推薦図書を紹介など関連行事を予定しています。

『新編 風の又三郎』 宮沢賢治・著 (新潮文庫)

私が推薦したいのは『新編 風の又三郎』です。この本は12編の話からできている童話集です。中でも私が特に紹介したいのは「やまなし」です。「小さな谷川の底を写した二枚の青い幻燈です。」という文から始まり、場面は水底で話している二匹の子蟹へと移ります。「クラムボンにはわらったよ。」そう話す子蟹たちですが、「クラムボン」とは何なのか一切の説明はありません。丁寧な風景描写と一方的な会話が続き、クラムボンが何なのか明かされることなく、物語は終わります。風景はしっかり浮かぶのに、どこかふわふわしている何か大事なところが抜けているような感覚のままいつの間にか読み終わっている。そんな不思議な雰囲気がこのお話の魅力だと私は思います。一度読めば、頭から離れないような本です。ぜひ読んでみてください。

図書委員☆オススメの本特集

『源氏物語を読む』高木和子・著 (岩波新書)

「日本文学の最高峰」と謳われる世界最古の長編小説、源氏物語。主人公、光源氏の波瀾万丈な人生と、その栄華を美しい情景描写と繊細な心理描写で綴ります。絶頂の美男子、光源氏が起こす数々のスキャンダルに数多の個性あふれる女性たち。華やかな宮廷と熾烈な権力闘争。源氏物語はとにかく面白い!この一言に尽きます。本書はそんな素晴らしい源氏物語を読みやすくしてくれた一冊です。源氏物語を初めて読むという人にも、すでに何度も通読している人にもおすすめできる一冊となっています。素人も玄人も、この本を読めば奥深い源氏の世界に存分に浸ることができます。300頁もないし、新書なので、すきま時間にもさくっと読むことができます。ぜひ読んでみてください。

『掟上今日子の備忘録』西尾維新・著 (講談社)

私が推薦する本は『掟上今日子の備忘録』という本です。この本に出会ったきっかけは、小学生の頃にこのドラマを見て面白かったと記憶していて、中学校の図書室でこの本に出会い、原作を読みたいと思いました。この本の面白さは、探偵である掟上今日子のキャラクター設定だと思います。なんとこの探偵は一度眠ってしまうと記憶がリセットされてしまうのです。限られた短い時間の中で事件の謎をどう紐解いていくのか、パズルのピースが1つずつぽつぽつと埋まっていくような感覚を味わうことができるのがこの本の最大の魅力だと思います。一冊の中に短編で5つの物語があるので、とても面白いと思います。備忘録の他にもたくさんのシリーズがあるので、ぜひ読んでみてください。ちなみに作者の名前をローマ字で表すと「NISIOISIN」どちらから読んでも西尾維新になります。偶然なのか意図的なのか気になります。

『キノの旅』時雨沢恵一・著(角川文庫)

この作品は、旅人のキノと人の言葉を理解することができるバイク、エルメスがいろいろな国を巡りながら不可解な事件や奇妙で不思議な人々に会い、旅を続けるというお話です。また連作短編集という形で書かれています。連作短編集というのは関連する短い物語が集められているものです。そのため本をあまり読まない人でも読みやすい本になっていると思います。また連作短編ごとに「…の国」というようにタイトルが付けられています。このタイトルの付け方はとても面白い発想だと思います。読み続けていくと本当に自分も旅をしているような感覚を味わうことができます。どうぞ皆さんも手に取って読んでみてください。きっと気に入る「国」の話が見つかると思います。

『5分後に意外な結末 ベスト・セレクション』桃戸ハル・著(講談社文)

私が紹介する本は『5分後に意外な結末ベスト・セレクション』です。この本は、『5分後に意外な結末』シリーズの「赤い悪夢」「青いミステリー」「白い恐怖」「黒いユーモア」「黄色い悲喜劇」の5冊の中から選び抜かれた22編が載っています。しかもただの物語ではありません。どの物語も結末で話の流れが一変するため、読み進めるにつれドキドキ感が味わえます。5分後にどんどん返し待つ物語。ぜひ、一度手に取ってみてください。

『偉大なるしゅららぼん』万城目学・著(集英社)

奇才、万城目学が送る【非日常の中の日常】、琵琶湖を舞台に「ナチュラルボーンな殿様」と共に過ごす超能力ハイスクールライフ!「湖の民」として人の心を操る能力を持つ日出一族。その分家の子として生まれた主人公、日出涼介もまたその能力を持つ。日出家の伝統として「能力を持つ者は高校生になると日出家の本家がある石走(架空の琵琶湖周辺の街)に修行のため集められる」というものがある。なお、日出本家は「湖の民」の能力を存分に発揮し、石走における絶対的な権力者で本物のお城(石走城)に住んでいるのである。その石走城で涼介を待っていたのは、本家の御曹司で同い年の日出淡十郎であった。この淡十郎、唯我独尊・傍若無人な振る舞いをし、ぶっちぎりで校則違反の赤い学ランを着て登校し、むかつく先輩には蜂の大群をプレゼント。そんなナチュラルボーンな殿様が親戚にいただけで苦勞するのに、同じクラスには日出家と1300年にもわたり因縁のある棗(なつめ)家の跡取り息子や、もともとの石走城の城主の末裔など色濃いキャラクターばかり。そんな中、淡十郎のある行動をきっかけに、琵琶湖ひいては日本滅亡の危機にさらされ、涼介や淡十郎は「湖の民」の能力を駆使して対抗していくことになる。タイトルにある「しゅららぼん」とは何か。それは物語の最後わかります。万城目学さんはこの『偉大なるしゅららぼん』の他にも京都の大学生がとある伝統競技に打ち込む『鴨川ホルモー』や鹿面にされてしまった男が日本を滅亡から救う『鹿男あをによし』など非常にユニークな作品を多く執筆されているので、ぜひ、はじめの数行だけでも読んでみてください。その世界観に引き込まれるはずですよ。

※図書館にない本も相互貸借(他館借り受けサービス)でご用意できる場合があります。お声かけください。

新着図書案内 10月

書名	著者名	出版社	請求記号
「おのずから」と「みずから」 日本思想の基層 ちくま学芸文庫	竹内整一	筑摩書房	121
10代のための疲れた体がラクになる本 「朝起きられない」「集中できない」「やる気が出ない」自分を救う方法	長沼睦雄	誠文堂新光社	498
もっと!とんでもないお菓子作り	江口和明	ワニブックス	596
図解でわかる14歳から学ぶこれからの観光	社会応援ネットワーク	太田出版	689
小論文これだけ!書き方超基礎編2 設問に的確に答える技術	樋口裕一	東洋経済新報社	816
午後のチャイムが鳴るまでは	阿津川辰海	実業之日本社	913.6
盤上に君はもういない 角川文庫	綾崎隼	KADOKAWA	913.6
存在のすべてを	塩田武士	朝日新聞出版	913.6

